第16回
ユネスコスクール全国大会 報告書

社会に開かれたユネスコスクール
ー 多様性と共生の未来への貢献ー

開催日 / 2024.11.30

会場 / 国立オリンピック記念青少年総合センター

【主催】 文部科学省、日本ユネスコ国内委員会
公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）

【共催】 国連教育科学文化機関（UNESCO）

【後援】 ASPUnivNet（ユネスコスクール支援大学間ネットワーク）
公益社団法人日本ユネスコ協会連盟

目次

大会概要 …… 03

当日プログラム …… 05

各プログラムの報告 …… 06

1. オープニング …… 06

2. 基調講演 …… 06

3. パネルディスカッション …… 07

4. ポスターセッション PRタイム …… 07

5. ポスターセッション …… 08

6. 分科会 …… 10

第１分科会 …… 11

第２分科会 …… 12

第３分科会 …… 13

第４分科会 …… 14

第５分科会 …… 15

第６分科会 …… 16

7. 分科会報告及び総括 …… 17

8. クロージング …… 17

データ …… 18

フォトギャラリー …… 25

大会概要

1. 大会テーマ

社会に開かれたユネスコスクール ― 多様性と共生の未来への貢献 ―

地域から世界へつながる学びを展開するために、ユネスコスクール・ネットワーク活用の意義を再確認した前回大会をふまえ、本大会ではインクルージョンや異文化理解を軸に、「社会に開かれた学校」としてのユネスコスクールの学びを考える。異なる文化やバックグラウンドを持つ人々が共に学び、共に未来を築く社会の実現に向けて、世界につながるユネスコスクールとしての貢献のあり方検討する。

2. 目的

ユネスコスクールの意義・役割や国内外のユネスコスクールをめぐる動向を周知するとともに、優良事例の共有や関係者間の交流を通じて、各校の活動の質の向上とネットワーク強化を図る。また、本大会を「第３回ユネスコウィーク（UNESCO WEEK 2024/25）」の一環として開催することで、より幅広い層にユネスコスクールの取組に対する関心・理解を促すと同時に、ユネスコスクールと他のユネスコ活動関係者やユースとの連携・協働の可能性を見出し、ユネスコ未来共創プラットフォームの活性化に寄与することを目指す。

3. 日程・場所

日時 /　2024年 11月 30日（土）　10:00～18:00

場所 /　対面会場：国立オリンピック記念青少年総合センター
国際交流棟　レセプションホール
（〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町３−１）
オンライン：参加登録された方へ Zoomリンクをお送りします。

4. 対象者

ユネスコスクール関係者（教職員、児童生徒）、一般幼小中高等学校等教員、教育行政関係者（教育委員会等）、教育研究等関係者（大学、研究所等）、教員志望者（教職課程の学生等）、ユネスコ活動関係者など
その他、SDGs達成に向けた人材育成や ESDに関心のあるステークホルダー（企業、報道関係者、NPO・NGO 等）

5. 実施体制

【主催】　文部科学省、日本ユネスコ国内委員会、
公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）

【共催】　国連教育科学文化機関（UNESCO）

【後援】　ASPUnivNet（ユネスコスクール支援大学間ネットワーク）、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟

チラシ

UNESCO WEEK 2024/25
第３回 ユネスコウィーク
開催期間 2024.11.25(月) → 12.1(日)
国立オリンピック記念青少年総合センター
ハイブリッド開催
参加費無料
私たちの多様な価値観と経験が、未来を彩ります。
持続可能で包摂的な未来の創造へ向けて、それぞれの発想と活動への情熱を持ち寄り、
共に学び、考え、より良い明日への一歩を踏み出しましょう。
日程 時間 内容 使用言語
11/25(月) 28(木) - ユネスコ活動に関わる情報発信やサイドイベント ◎11/28(木) ユネスコスクールオンライン意見交換会 日本語
11/29(金) 18:00 19:30 国際シンポジウム 「持続可能な未来へと続く持続可能なコミュニティ」 日本語 英語
11/30(土) 10:00 18:00 第16回ユネスコスクール全国大会 「社会に開かれたユネスコスクール ―多様性と共生の未来への貢献―」 日本語
12/1(日) 10:30 17:30 ユースフォーラム 「『今から、ここから、わたしから』 ―ユースが集い、創るユネスコ活動の未来―」 日本語
場所
対面会場 国立オリンピック記念青少年総合センター 国際交流棟 レセプションホール（東京都渋谷区代々木神園町 3-1）
Web参加 参加登録された方へ後日 Zoomリンクをお送りします。
申込期間
対面会場 各プログラムの定員に達し次第締め切りとなります。
Web参加 開催当日までお申し込みいただけます。
参加登録は特設サイトから
https://unesco-sdgs.mext.go.jp/unesco-week-03
お問合せ 公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-32-7F 出版クラブビル
TEL：03-5577-2852 FAX：03-5577-2854
Email：education@accu.or.jp
主催：文部科学省 / 日本ユネスコ国内委員会 / 公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）
共催：国連教育科学文化機関（UNESCO）
協賛：石坂産業株式会社
文部科学省
unesco
ACCU
unesco
ISHIZAKA

（表）

第16回ユネスコスクール全国大会
社会に開かれたユネスコスクール
― 多様性と共生の未来への貢献 ―
11/30(土)
10:00-18:00
ハイブリッド開催
参加費無料
使用言語 日本語
基調講演 「出会いこそ、生きる力」
サヘル・ローズ（俳優、タレント）
会場 国立オリンピック記念青少年総合センター 国際交流棟 レセプションホール
《プログラム》
9:30-10:00 (30分) 受付／入室
10:00-11:45 (105分) 全体会
・オープニング
・基調講演 /「出会いこそ、生きる力」サヘル・ローズ（俳優、タレント）
・パネルディスカッション モデレーター / 岩本泰（ASPUnivNet 東海大学）
パネリスト / ユネスコスクール生徒、次世代ユネスコ国内委員会委員等
・ポスターセッション PR タイム
11:45-13:00 (75分) ＜休憩＞
13:00-13:45 (45分) ポスターセッション
希望するユネスコスクール加盟校、キャンディデート校、チャレンジ期間中の学校、ユネスコ活動関係者等
14:00-16:00 (120分) 分科会
① 持続可能なESDの取組のための外部支援の活用に向けて
―ASPUnivNet × ESD活動支援センター × ESDコンシェルジュ等による学校支援の概要―
② 蘇れ！ユースII ―共生社会の実現に向けた生徒向けワークショップ―
③ 社会との相互作用を通して創る探究の学び
―「できない理由」から「できる方法」を若手教員と考えるワークショップ―
④ ESDが拓く社会 ―ESD大賞がもたらすもの 受賞校の事例から―
⑤ 国際交流・国際協働学習を創造できる教職員 ―NEXT GIGAを活かして―
⑥ ―Act locally―学校と地域をつないだESD展開を一緒に考えましょう！
16:00-16:30 (30分) ＜休憩＞
16:30-17:20 (50分) 全体会
・分科会報告及び総括 進行 / 及川幸彦（ASPUnivNet 奈良教育大学）
報告 / 各分科会代表者
・クロージング
17:20-18:00 (40分) 会場開放 相談コーナー、参加者同士の交流
第15回ESD大賞授賞式（17:30-18:00） / ESD推進フォーラム
※ 昼食は提供されません。各自ご持参または施設内や近隣の飲食店等をご利用くださいますようお願いいたします。
主催 ASPUnivNet（ユネスコスクール支援大学間ネットワーク）、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟
UNESCO WEEK 2024/25

（裏）

当日プログラム

時　間		内　容
9:30-10:00	（30分）	受付／入室
10:00-11:45	（105分）	**全体会** - **オープニング** - **基調講演** / 「出会いこそ、生きる力」サヘル・ローズ（俳優、タレント） - **パネルディスカッション**　モデレーター / 岩本泰（ASPUnivNet 東海大学） パネリスト / ユネスコスクール生徒、次世代ユネスコ国内委員会委員等 - **ポスターセッション PR タイム**
11:45-13:00	（75 分）	休憩
13:00-13:45	（45分）	**ポスターセッション** 希望するユネスコスクール加盟校、キャンディデート校、チャレンジ期間中の学校、ユネスコ活動関係者等
14:00-16:00	（120分）	**分科会** ① **持続可能な ESD の取組のための外部支援の活用に向けて** **ーASPUnivNet × ESD 活動支援センター ×ESD コンソーシアム等による学校支援の構築ー** ハイブリッド ② **集まれ！ユース！！　ー共生社会の実現に向けた生徒向けワークショップー** ハイブリッド ③ **社会との相互作用を通して創る探究の学び** **ー「できない理由」から「できる方法」を若手教員と考えるワークショップー** 対面 ④ **ESD が拓く社会　ーESD 大賞がもたらすもの 受賞校の事例からー** ハイブリッド ⑤ **国際交流・国際協働学習を創造できる教職員 ーNEXT GIGA を活かしてー** ハイブリッド ⑥ **ーAct locallyー　学校と地域をつないだ ESD 展開を一緒に考えましょう！** ハイブリッド
16:00-16:30	（30分）	休憩
16:30-17:20	（50分）	**全体会** - **分科会報告及び総括**　進行 / 及川幸彦 (ASPUnivNet 奈良教育大学) 報告 / 各分科会代表者 - **クロージング映像**
17:20-18:00	（40分）	**会場解放**　相談コーナー、参加者同士の交流 **第 15 回 ESD 大賞授賞式（17:30 -18:00）/ ESD 推進フォーラム**

※ 会場は 18 時まで開放し、参加者同士で交流を深める時間とした。
※ 大会終了後、同会場にて第 15 回 ESD 大賞授賞式が開催された。

各プログラムの報告

1. オープニング

オープニング映像

法政大学・坂本旬教授のゼミに所属する大学生に制作いただいたオープニング映像を上映した。当日のプログラムやユネスコスクールの活動イメージを伝える、大会の幕開けにふさわしい明るい映像で、会場の期待感が高まった。

開会挨拶　渡辺その子
（文部科学省国際統括官／日本ユネスコ国内委員会事務総長）

開会にあたり、渡辺その子文部科学省国際統括官／日本ユネスコ国内委員会事務総長から開会挨拶がなされた。持続可能な開発のための教育（ESD）とユネスコスクールの活動を通じて、相手を理解し、違いを認め、持続可能な未来を次世代に残していくための活動の重要性を指摘しつつ、本大会が、多様な主体による様々な実践を共有し合うことで、持続可能な、より良い未来へつながるための機会となることへの期待が述べられた。

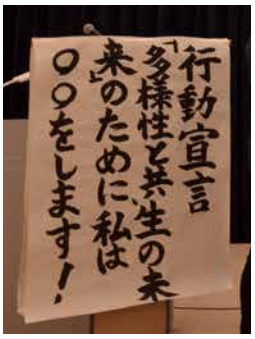
2. 基調講演

「出会いこそ、生きる力」　サヘル・ローズ（俳優、タレント）

俳優・タレント、人権活動家としても知られるサヘル･ローズ氏による基調講演が行われた。自身の幼少期の経験から、現在、国内外を問わず取り組んでいる支援活動に至るまで、さまざまな体験から得た学びや自身の思いが共有され、大会テーマに寄せて、力強いメッセージが届けられた。

3. パネルディスカッション

モデレーター / 岩本泰(ASPUnivNet 東海大学)
パネリスト / 松雪 七之　名古屋国際中学校(ユネスコスクール加盟校) 3年生
井上 諄南　岡山県立矢掛高等学校(ユネスコスクール加盟校) 3年生
田口 裕佳　横浜女学院高等学校(ユネスコスクール・キャンディデート) 2年生
長澤 パティ 明寿　次世代ユネスコ国内委員会委員　ユース代表
サヘル・ローズ　俳優・タレント　基調講演者



東海大学・岩本泰教授をモデレーターに、パネリストにはユネスコスクール加盟校・キャンディデート校から3名の生徒、次世代ユネスコ国内委員の長澤パティ明寿氏、基調講演者のサヘル・ローズ氏を迎えて、パネルディスカッションが行われた。モデレーター、各パネリストの自己紹介の後、本大会のテーマに迫る「学校や社会で『いじめ』『排除』が起こるのは、なぜでしょうか？」、「今は、『多様性と共生の現在』ですか？」、「『誰一人取り残さない』ために『生きる力』を与える『魔法の言葉』があるとしたら、どんな言葉ですか？」といった質問を大喜利形式で展開し、パネリスト達によるディスカッションが行われた。

最後に、生徒の皆さんより各自が考える「多様性と共生の未来」のための行動宣言があり、他の登壇者や会場からエールが送られた。ユネスコスクールでの学びの価値や、一人ひとりの想いや行動の重要性を再認識するセッションとなった。

4. ポスターセッションPRタイム

ポスターセッション発表代表者 11名が、それぞれの発表についてアピールした。

5. ポスターセッション

希望するユネスコスクール等がそれぞれの取組内容及び成果を発表した。対面および動画発表は10校、対面発表のみは1校、動画発表のみは2校となった。各校の詳細は以下の通り。

	学校名	発表タイトル	発表の概要
1	**聖徳学園中学高等学校**	夏休みの企業施設めぐり	中学生の希望者を対象に夏休みの一週間を使い、生鮮・法律・加工・報道・流通を各日のテーマとして、午前と午後に1企業ずつ、都内の企業施設を巡った。当初の目標は「いろいろな興味を引き出す」だったが、全日参加の生徒が数人いたため、「多様性の育成」にも特化できるプログラムだと感じている。
2	**奈良教育大学**	教師を目指す奈良の大学生が創るESD実践～奈良教育大学ユネスコクラブの活動～	本学ユネスコクラブは「ESDを実践できる教員になる」「ESDを楽しく追究する」という目標のもと、日々活動を行っている。多様な主体と連携しながら、大学生ならではの視点からSDGsについて伝える活動を行うことで、より良い ESD実践を探究している。そのようなユネスコクラブの活動を発表する。
3	**大阪教育大学附属高等学校池田校舎**	大阪・関西ユネスコスクール（ASPnet）ネットワークによる学び合いの成果	2024年度事業において、参加児童・生徒にどのような学びや成長があったのかを報告する。
4	**東京都立山崎高等学校**	ユネスコスクールづくりと全人的な教育 ～教科活動と教科外活動の役割～	本校における全人的な教育にもとづいたユネスコスクールづくりについて、教科活動と教科外活動における本校の実践事例を紹介する。
5	**神奈川県立有馬高等学校**	公立高校におけるユネスコスクールの持続的取り組みと促進の模索	公立高校におけるユネスコスクールの維持発展は、異動に伴い常に不安定な状態にある。しかしながら、教育活動として有益な活動を生徒に安定的に供給する必要がある。本校では総合的な探究の時間に組み込むことで、安定的に高いレベルでユネスコスクール活動を実施する方法を検討実施している。
6	**名古屋経済大学市邨高等学校**	平和の架け橋プロジェクト 2024	ユネスコ憲章の理念実現のため、国内外の高校生と協働した活動である。様々な専門家（国連組織、海外NPO、JICA職員、企業、大学教授など）から対面及びオンラインで学び、高校生としてできることを考え、実践する活動である。
7	**岡山県立矢掛高等学校**	矢掛高校の地域連携の取り組み	本校は岡山県南西部の中山間地域にある120年の伝統を持つ県立高校である。学校設定科目「やかげ学」を中心とした、本校で実施され

			ている「地域をフィールドとした学び」を紹介し、今後の発展に向けた可能性をみなさんと一緒に考えるきっかけとしたい。
8	**兵庫県立舞子高等学校**	日本被団協ノーベル平和賞受賞記念折り鶴イベントの実施	日本被団協がノーベル平和賞を受賞したことを祝い、世界の平和と、核兵器が使われないことを願って折り鶴を折り、メッセージを添えて写真を送ってもらうイベントを実施する。
9	**東京都市大学等々力高等学校**	Noblesse oblige ～誰も取り残さない社会に向けて～	本校の Winged Wordsの取り組みを紹介する。Winged Wordsは海外のパートナー校と主体的･対話的･協働的に学び、世界に訴えるメッセージ(Winged Words) を共同制作するプロジェクト学習である。今回は学校紹介の後、中間報告として SDGs Goal.1 と Goal.16に関する問題提起と解決策を提示する。
10	**湘南学園**	サステナトレセン Project.	「サステナトレセン Project.」は、「世界はたのしく変えられる。」を合言葉に、湘南ベルマーレと本校のコラボ企画である。湘南エリアのサステナブルな食について、子ども達が地域や企業の方と一緒に考えていく。世代や立場を越えて、地域や社会の中で新たな価値を生み出し、未来を共創していこうと考えている。
11	**不二聖心女子学院** **※対面発表のみ**	ユネスコスクールとしての本校の取り組み	ユネスコスクールとして本校が取り組んでいる、ESDの一環としての里山･森づくり探究活動とユネスコへの理解を深めるユネスコ本部訪問について報告する。
12	**山陽女学園高等部** **※動画発表のみ**	宮島が世界中の人に愛される理由 ～もっと愛されるために～	本校は世界遺産宮島がある廿日市に位置する。総合的な探究の時間では、宮島に関する研究テーマを個々で決めて探究している。本発表では、観光客が増える宮島では何かしらのトラブルがあるのではないかと仮説を立て、観光客が宮島をどのように感じているか、観光客の満足度を現地調査 (シールインタビュー) から考察する。
13	**宮城県仙台第三高等学校** **※動画発表のみ**	学校林の間伐材の有効活用	本校には 60年前にヒノキが植樹された学校林があり、授業で自然散策ができるように管理している。しかし、学校林には安全確保のため伐採した間伐材が多く放置されており、私たちはこの間伐材について課題を感じ、活用方法の探究を始めた。今回は自分たちで間伐材を加工し、学校内で有効活用した取り組みについて紹介する。
		大堤沼公園インクルーシブ化計画	本校に隣接する大堤沼公園は、未整備のまま放置され続けている。この公園をインクルーシブ化、つまり、障害の有無や年齢などに関係なく誰でも利用できるようにするということを目指し、地域の方々と協働しながら開発を目指している。地域住民の要望を分析し、公園化の実現に向けての可能性を見出していく探究活動である。

6. 分科会

第 1 分科会

ハイブリッド　対面会場：国際交流棟　レセプションホール

持続可能な ESDの取組ための外部支援の活用に向けて ― ASPUnivNet × ESD活動支援センター × ESDコンソーシアム等による学校支援の構築 ―

運営担当　ASPUnivNet運営委員会

登壇者

- 奈良教育大学　及川幸彦
- 創価大学　関田一彦
- 福岡教育大学　石丸哲史
- 琉球大学　大島順子
- 玉川大学　小林亮
- 東京都立山崎高等学校　町谷光博
- 大阪公立大学　伊井直比呂
- 大阪府立佐野高等学校　向井小雪
- 奈良教育大学ユネスコクラブ　苗代昇妥、木幡美幸、吉岡優来
- 練馬区立中村中学校　清水啓子
- ESD活動支援センター　加藤超大
- 北陸 ESDコンソーシアム　池端弘久
- 日本ユネスコ協会連盟　安田昌則

概　要

※参加募集時案内

ユネスコスクール等の学校の ESDの更なる実践の質の向上と取組の持続発展を図るために、「ユネスコスクール支援大学間ネットワーク（ASPUnivNet）」の支援機能を可視化するとともに、ESD活動支援センターや ESDコンソーシアム、日本ユネスコ協会連盟等の ESDネットワークとの連携・協働による学校支援の更なる深化と拡充について検討し、ESDのスタートアップ校や推進上の課題を抱える学校、取組のさらなる持続発展をめざす学校など、それぞれの学校のESDの進捗状況や推進体制に応じた外部支援ネットワークの効果的な活用について展望し、学校を核とした多様な主体による ESD推進のプラットフォーム構築をめざす。

実施報告

本分科会は、「持続可能な取組のための外部支援の活用に向けて」をテーマに、ユネスコスクール等の学校のESDの更なる実践の質の向上と取組の持続発展を図るため、ASPUnivNetの支援機能を可視化するとともに、ESDを実践・支援する多様なステークホルダーからなる ESDネットワークとの協働による学校支援の更なる深化と拡充について検討することを目的に、ASPUnivNetの事例発表と多様な主体によるパネルディスカッションを行った。

事例発表では、ASPUnivNetによるユネスコスクール関東ブロック大会を通じた学び合いによる学校支援、大阪のユネスコスクールのネットワークへの支援、そして、大学のユースを通じた学校の取組への支援の３つの個性的な事例が紹介された。

その後のパネルディスカッションでは、ユネスコスクールや ASPUnivNet、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアム、ユネスコクラブ、日本ユネスコ協会連盟の代表者がそれぞれの取組を通じて学校支援の強みや課題を共有し、参加者とESDの推進に向けた学校支援の拡充を図るための可能性を議論するとともに、多様な主体が連携してネットワークとして支援する必要性を確認した。

（報告者：及川幸彦 氏）

ハイブリッド　対面会場：国際交流棟　第 1 ミーティングルーム

集まれ！ユース !!
― 共生社会の実現に向けた生徒向けワークショップ ―

運営担当

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）国際教育交流部

登壇者

- 名古屋経済大学市邨高等学校　生徒 3名
- 神奈川県立横浜国際高等学校　生徒 1名
- 株式会社ファーストリテイリング　山口由希子

概　要

※参加募集時案内

本プログラムは、名古屋経済大学市邨高等学校における共生社会の実現に向けた実践事例についての紹介、そして共生について参加者の皆様と考えるグループディスカッションで構成されている。ファシリテーターとして、名古屋経済大学市邨高等学校の生徒3名、ACCUで今年8月～9月に実施したアジア太平洋地域 5ヶ国の高校生を対象とした国際協働学習事業「BRIDGE Across Asia Conference 2024」の参加者 1名（高校生）が登壇する。当日は難民支援などを切り口に、今私たちにできることや、より良い社会・未来を切り開くためのアクションプランを検討する。

実施報告

将来の変化を予測することが困難な時代において、私たちを取り巻く社会状況は絶えず変化している。このような状況下、日本を含む様々な地域における「多様性」への理解を深め、共生社会の実現に向けて「中学生・高校生にできることは何か」を考える生徒対象ワークショップを行った。当日は、共生社会の定義を再確認することから始まり、日本及び海外における多様性や共生社会の実現に向けた取組について登壇者 5名が発表した。発表後のグループディスカッションでは、国内外で日常生活に何らかの困難を抱えている人々に対し、自分たちにできることを話し合った。参加者からは、外国にルーツをもつ子どもたちの言語面や生活面における課題をSNSやエッセイなどで幅広く共有し、彼らに寄り添う環境や居場所づくりに取り組みたいというものや、難民問題について自分事として捉えられるような機会をつくりたいなどの意見が出た。最後に本分科会で議論した内容や構築したネットワークを一時的なものにせず、共生社会の実現を目指し継続的なものにすることの重要性について確認した。

（報告者：ACCU 蓮見詩保子）

第３分科会

対面　会場：センター棟　109室

社会との相互作用を通して創る探究の学び
―「できない理由」から「できる方法」を若手教員と考えるワークショップ―

運営担当　ESD日本ユース／公益財団法人五井平和財団

登壇者
- 麗澤中学・高等学校　瀧村尚也
- 大分大学　河野晋也
- 城西大学附属城西中学・高等学校　釜付祐也

概　要

※参加募集時案内

これからの学校教育では、一人ひとりの子どもが、豊かな人生を切り開き、「持続可能な社会の創り手」に必要な力を育むことが目指されている。社会の担い手としての学びを支援するには学校を飛び出し、多様なステークホルダーと出会っていくことが不可欠だと考える。今回は、地域や学校でESDの次世代リーダーとして活躍する「ESD日本ユース」の探究学習や産官学民プロジェクトの活動事例をもとに、各学校の先生が抱える「できない理由」から、様々な視点で「できる方法」を共に考え、どのようにして実現できるかを探る。新しい学びを創る上で欠かすことができない、世代を超えた対話を行いながら、若手教員と中堅世代で共に考えるワークショップ。

実施報告

本分科会は、地域や学校で ESDの次世代リーダーとして活躍する「ESD日本ユース」の探究学習や産官学プロジェクトの活動事例をもとに、各学校の先生が抱える「できない理由」から、様々な視点で「できる方法」を対話を通じて若手教員と中堅世代で共創するワークショップを実施した。

活動事例として、麗澤中学・高等学校の瀧村教諭より、福島の持続可能な環境や未来に貢献することを目的とする学校協働プロジェクト『GOALs』と、同校の部活動『SDGs研究会』を取り上げ、元々は数多くの「できない理由」から、創り上げられたものであることを紹介した。その後、参加者と共に対話型のワークショップを通じて、参加者一人ひとりのやってみたいことを企画として立案し、どのようにしたらできるのかを検討した。最終的には『エンタメ』『スポーツ』『祭り』などのとてもユニークなテーマから企画が立案され、世代を超えた対話から新しい学びを生み出すことができた。

今後、このワークショップ内で提案された企画案が実践され、本分科会がそのきっかけになることを願う。

（報告者：瀧村尚也 氏）

第 4 分科会

ハイブリッド　対面会場：センター棟　503 室及び 510 室

ESD が拓く社会
― ESD 大賞がもたらすもの 受賞校の事例から ―

運営担当　NPO法人 日本持続発展教育（ESD）推進フォーラム

登壇者
- 湘南学園　住田昌治
- NPO法人日本持続発展教育推進フォーラム　岡山慶子
- 勝山市立成器南小学校　齋藤英市
- 宮城県仙台第三高等学校　渡部敦
- 東京工科大学　山下俊
- ネスレ日本株式会社　山口恵佑
- 仙台ユネスコ協会　見上一幸

概　要

※参加募集時案内

ESDは、教育現場だけで完結するものではない。培った考え方や経験は、大学での研究や企業活動でもいかされ、持続可能な社会に貢献すると同時に、子どもたちそれぞれの強みとなる。ESD大賞は、先生にとって活動の方向性の確認となり、活動が地域に開かれることで、企業や地域住民、先生以外の大人との関わりを生み、児童生徒の変容をもたらす。本分科会では、ESD大賞受賞校が発表し、子どもの成長、地域との関わりなど実例を示す。さらに、高校と社会の橋渡し役である大学の立場から東京工科大学、ESDを基盤としたサステナビリティの取り組みなど企業の立場からネスレ日本株式会社が登壇。ESDが拓く社会について多視点から語る。

実施報告

本分科会では、NPO法人日本持続発展教育推進フォーラムが主催する本年度第 15 回を迎えたESD大賞 2023 年度受賞校、勝山市立成器南小学校齋藤教諭、仙台第三高等学校渡部教諭それぞれから実践について発表があった。

その後、東京工科大学山下教授から自校で実践するサステナビリティ工学を中心に「時代の変化、多様性に対応できる人材を育成することの重要性」について語られ、ネスレ日本山口氏から、企業が行っているサステナビリティ活動や「企業が求める人材と ESDの共通項」について説明された。

意見交換の時間では、普段どのような立場で教育と関わっているか、地域やその学校組織特有の課題、活動前後の生徒の変容など参加者同士が共有しながら、地域と校種を超えて関係構築がなされた。

最後に、第 6 回ESD大賞にて中学校賞を受賞し、その時に得た課題解決力や経験をもとに今や地元の市役所で”児童生徒が学ぶフィールドづくり”に励んでいる成器南小学校齋藤教諭の教え子の方のインタビュー動画を放映し、ESDの学びは学校現場だけで終わらないことについて実例をもとに理解を深めた。

参加した小学校教諭からは「小学校、高等学校、大学、企業での取組を伺うことで、小学校で目指すことが分かった気がする」との感想が寄せられた。

（報告者：NPO 法人日本持続発展教育推進フォーラム）

第 5 分科会

ハイブリッド　対面会場：センター棟　310 室

国際交流・国際協働学習を創造できる教職員
― NEXT GIGA を活かして ―

運営担当　ESD実践者・ユネスコスクール教員等

登壇者
- NPO法人みずすまし　武田國宏
- 昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校　藤原敏晃、木村明子
- 東京都板橋区立緑小学校　市之瀬輝明
- NPO法人 JEARN　栗田智子

概　要
※参加募集時案内

本分科会は、多様性と共生の未来へ貢献するため、ユネスコスクールの教育活動をよりグローバルな視点から発展させるために開催する。国際交流・国際協働学習のGood Practice（昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校、東京都板橋区立緑小学校）を共有し、グローバルな視点から持続可能な社会づくりに貢献できる教職員、園児・児童・生徒の育成の重要性を考える。NPO法人 JEARNから国際協働学習のコンセプト、実現までのプロセス・コツ、具体的な実践事例について学ぶ。さらに、参加者の学校等で国際交流・国際協働学習を実践するための「成功体験、困っている事・不安の共有」、そして、「何を、どのように改善、準備すれば可能になるのか」ワークショップを通して考える。

実施報告

国際交流学習・国際協働学習はユネスコスクールの目的の一つである「国際ネットワークの一員として、同じような志を持つ世界中の学校と知見を共有しパートナーシップを育むこと」という目的を達成するために有効な手段である。

本分科会では、国際協働学習を「SDGsに貢献するプロジェクトをベースとした学習を世界と共に学ぶこと」と定義した。On-line交流として、非同期型交流（ビデオレターやプラットフォームでのディスカッション等）、同期型交流（zoom等を活用してリアルタイムでの交流）の２つを組み合わせることが効果的である。2校のGood practiceの発表、NPO法人 JEARNの提案から国際交流・協働学習実現のためのヒント、条件について以下を確認した。

①校内体制の確立 ②パートナー校との信頼関係、相互文化理解の重要性 ③児童生徒の外国語コミュニケーション体験を増やすこと ④ESDの学びを児童・生徒中心の学びへ移行すること ⑤GIGA端末を有効に活用すること

参加者のワークショップを通して、国際協働学習を単なるイベントで終わらせることなく、児童・生徒の学びの成果（outcome）を明確にすることの重要性、タブレット端末の有効な活用のためにデジタル・シティズンシップ教育を進めることの必要性も確認した。

（報告者：武田國宏 氏）

第 6 分科会

ハイブリッド　対面会場：国際交流棟　第２ミーティングルーム

― Act locally ―
学校と地域をつないだ ESD 展開を一緒に考えましょう！

運営担当

ESD実践者・ユネスコスクール教員等

登壇者

- かながわユネスコスクールネットワーク（KAN）　望月浩明
- 柏ユネスコ協会　鈴木郁香
- 気仙沼市・宮城教育大学連携センター　淺野亮
- 豊橋市立八町小学校　山本武志

概　要

※参加募集時案内

本大会のテーマは「社会に開かれたユネスコスクール ―多様性と共生への貢献―」であり、本分科会は「『ユネスコ』でつながる地域連携」をテーマとしている。ユネスコスクール活動は学校内での活動はもちろんだが、地域とのかかわりや連携も重要なポイントになっている。しかし、地域の多様なステークホルダーと、どのようなかたちで連携を進めたらよいのか。そのテーマは、糸口は、関係づくりは、などについてユネスコスクールの立場から、教育行政・研究機関の立場から、そして地域団体の立場から話題提供を頂き、それを受けて参加者のみなさんとお互いにとってどうしたら Win-Win の良好な関係を築くことができるかを考えてゆきたい。教育関係者、地域で活動する個人、団体の皆さんの参加をお待ちしています。

実施報告

ユネスコスクールと地域人材・団体とが Win-Win の関係を築くための手がかりを求めて実施した。まず、学校側の立場から山本先生が地域の文化、伝統の継承に関わる活動で保存会、宮司さん等の協力を得ていること、コミュニティスクールメンバーの学校への協力が重要であることなどを紹介した。教育行政の立場からは淺野先生が、気仙沼市ではユネスコスクール、パイオニアスクール（海洋教育）等が海を素材にした教育（多様性、多文化共生、防災など）を行政、諸団体・機関などと連携しつつ行っていることを紹介した。こうした活動は、地域の様々な立場の人が参加するESD・RCE推進委員会が連携調整しながら進められているとの説明があった。また、地域ユネスコ協会の橋渡しでキリバス共和国の学校と海外連携・交流も行われているとのこと。地域団体の立場から鈴木先生は、千葉ユネスコ子どもキャンプで県内のユネスコスクールにも参加を呼びかけ（小中生は参加者、高校生はスタッフとして）毎年参加者が増えてきていると報告。こうした事業は単年度でなく継続が大事で、小中学校で参加した子供たちが高校生になって戻ってきてくれる。地域でそうした好循環を作ることが大切との説明があった。残りの時間で会場およびオンライン参加者同士の話し合いや情報交換を行い終了した。

（報告者：望月浩明 氏）

7. 分科会報告及び総括

各分科会の代表者より、各分科会での成果について報告がなされた（各分科会の詳細については本報告書の 2. 分科会を参照）。その後、総括として、奈良教育大学 及川幸彦氏（ASPUnivNet運営委員長）より、ユネスコスクール全国大会16年及びESD 20年の歩みを踏まえて、現在の成果と課題に関してコメントがなされた。

8. クロージング

クロージング映像

法政大学・坂本旬教授のゼミに所属する大学生 3名に制作いただいたクロージング映像を上映した。当日の様々な場面の画像や動画が順を追ってまとめられ、参加者各々が 1日を振り返る機会となった。

閉会挨拶　大安喜一（ACCU 教育協力部長）

閉会にあたり、大安喜一 ACCU教育協力部長より挨拶がなされた。ユネスコ未来共創プラットフォームの「第３回ユネスコウィーク」の一環として実施した本大会及び前日に開催された国際シンポジウムの議論に触れながら、ユネスコウィーク及び本大会が、ユネスコスクールが社会に開かれた存在として、さまざまな学校や組織とつながり、発展する機会となることへの期待が述べられた。

データ

実績

	会場	オンライン	合計
大会参加登録者数	193	158	351
当日参加者数	224	79	303
アーカイブ配信視聴登録者数*1	—	—	152

*1 … のべ回数、2025 年 2 月 28 日時点

各分科会参加登録者数					
第１分科会（ハイブリッド）	第２分科会（ハイブリッド）	第３分科会（対面のみ）	第４分科会（ハイブリッド）	第５分科会（ハイブリッド）	第６分科会（ハイブリッド）
87	44	12	62	60	66

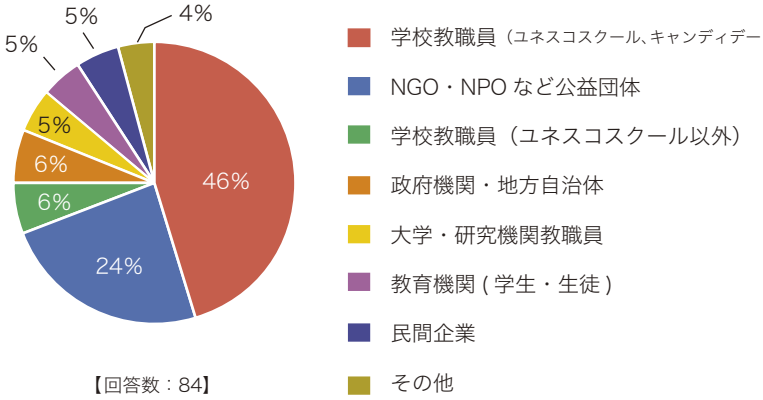
※ 当日参加者数は集計記録なし。

事後アンケート

第 16 回ユネスコスクール全国大会の参加者へ、大会後 WEBアンケート調査を行った。調査期間は 2024年 11月 30日（土）～2024年 12月 23日（月）、最終的な回答数は**84件**となった。　※以下グラフは、端数処理の関係で内訳の和が100%にならない項目があります。

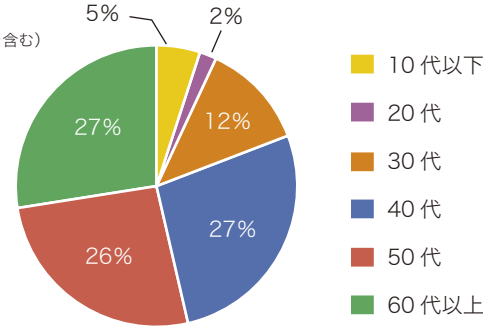
参加者基本情報

1．　あなたのお立場を教えてください。



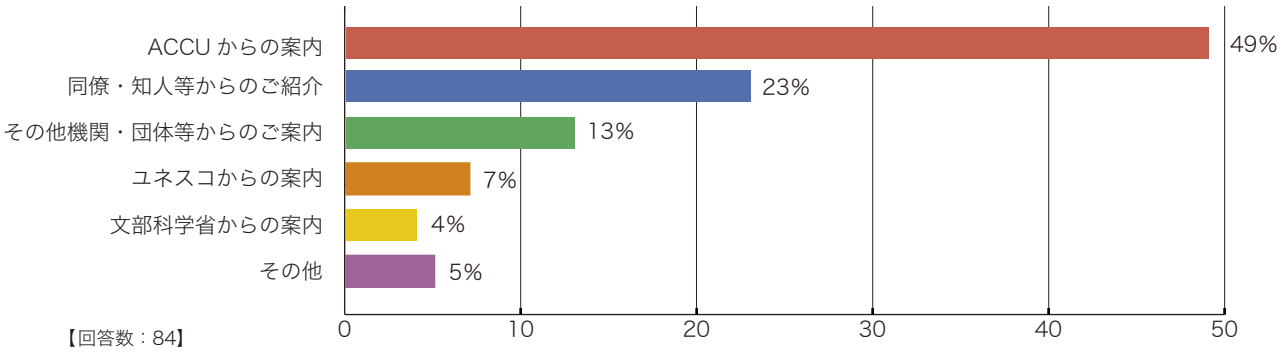
【回答数：84】

2．　あなたの年代を教えてください。



【回答数：84】

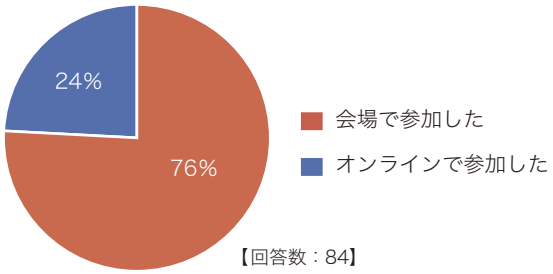
3． 本イベントをどのようにお知りになりましたか？



【回答数：84】

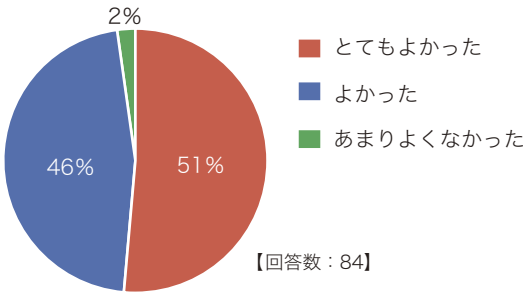
第 16 回ユネスコスクール全国大会について

1． 第 16 回 ユネスコスクール全国大会に参加されましたか。



【回答数：84】

2． 第 16 回ユネスコスクール全国大会に対する評価をお聞かせください。



【回答数：84】

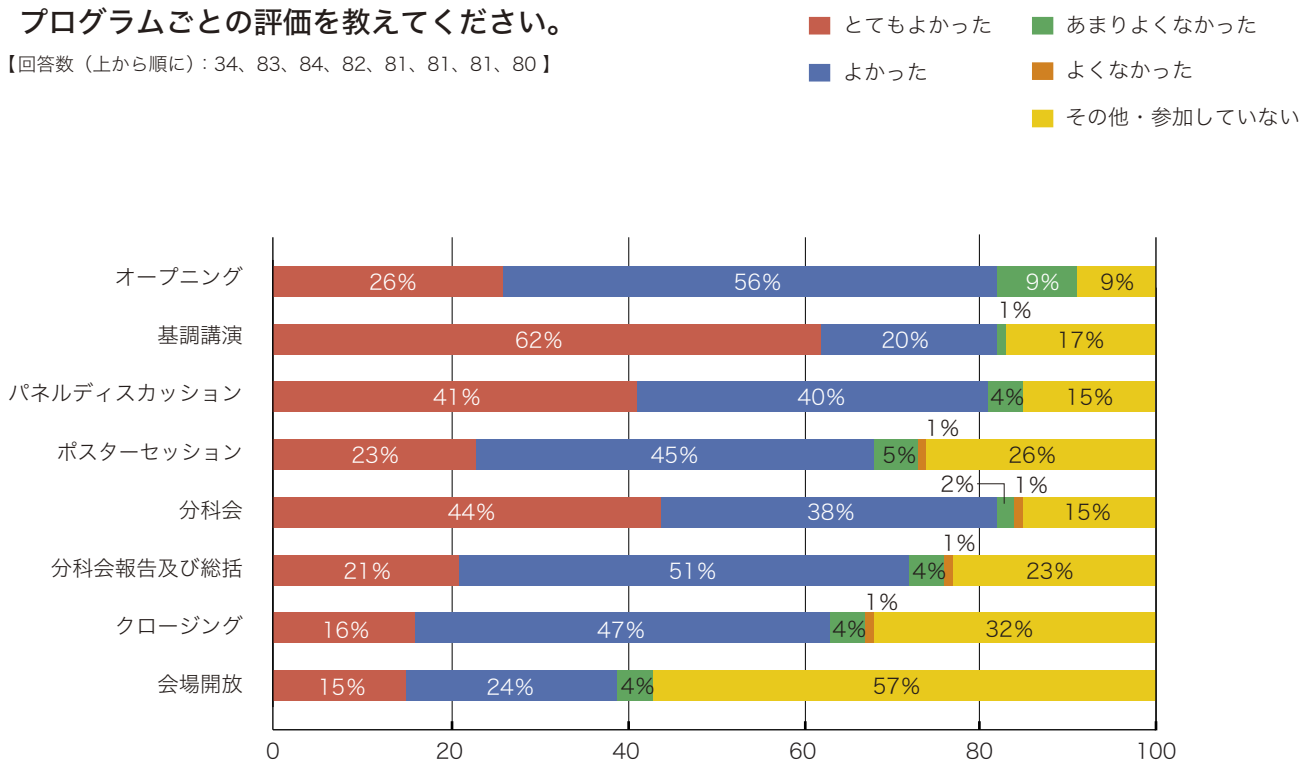
3． 評価の理由を教えてください。

主な回答
ESDの充実に必要なテーマに対して、マルチステークホルダー参加による最新動向の入手、実践と議論を通したフィードバックができた。
サヘル･ローズさんの基調講演に始まり、中高生のパネルディスカッション、そして分科会など非常に充実した内容で、新しい試みも多かったと思う。
サヘルさんのお話が胸に落ちました。学校の全校集会で今回の大会の感想などを、ユネスコ委員会を通して発表した。
サヘルさんの基調講演と中学生・高校生とのパネルディスカッションは共生の社会に向けて、社会が動いていることを感じることができた。
サヘル・ローズさんとディスカッションする貴重な機会となった。自分を大切にすることから始めようと思った。
ユース世代がユネスコ活動に関わる意義など理解できた。
学生ながらも、教育に関する知見を深めることができた。

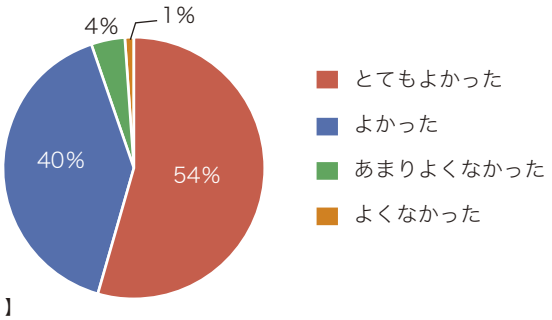
基調講演とパネルディスカッションがとても面白かった。ユネスコスクールの生徒たちがとってもしっかり話ができていて、自分の生徒もこのように育てたいと強く思った。
パネルディスカッションの進行の仕方（大喜利スタイル）が素晴らしかった。
基調講演は、ご経験を元にしたお話が印象的であり、個人の尊厳と多様性の尊重について再考する機会となった。
基調講演やパネルディスカッションは現代学校教育の問題点を取り上げ、我々教職員への警笛となったと感じた。
教職員や生徒が交流し、具体的な活動から相互の知見共有があった。
現状の課題と、ユネスコスクールの役割について、有意義な話し合いができたと感じた。
時間がゆったり設定されていたので動きやすかった。
実践事例の苦労や成果が良く伝わってきた。
生徒の参加があり、今までとは違った内容は好感が持てた。
全国の先進校の実践を知ることができた。現在進めようと考えていることのヒントをいただけた。最新の動きを感じることができた。
多くの方の実践や、たわいもない話などいろいろと伺うことができて、今後も頑張ろう！と思えた。
大学教授等、新しい人脈をつくることができた。
大人、生徒、それぞれが学び、考えることができる場となった。
地域や学校種また教科領域によるユネスコスクール実践の多様なアプローチを知ることができた。

4．プログラムごとの評価を教えてください。

【回答数（上から順に）：34、83、84、82、81、81、81、80 】



5． 参加した分科会に対する評価についてお聞かせください。



【回答数：68 】

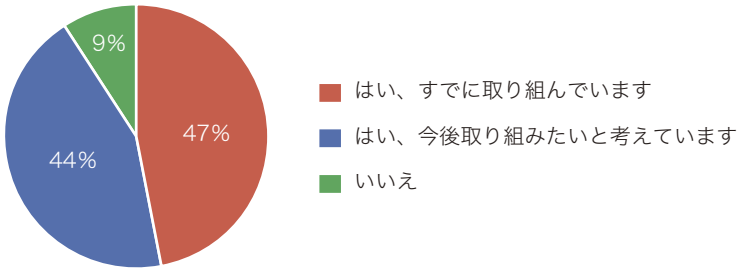
6． 評価の理由を教えてください。

主な回答
登壇者に女性がいらして、民間のユネスコ協会の立場も話されて良かった（女性活躍の面からも）。グループワークがあったので、自分の思いを少しでも話すことができた。
それぞれのセクターが抱える課題について現場の意見が聞けて学びが深まった。
これからユネスコスクールとして盛り上げていきたい学校の担当者にとっては、もう少し具体的なアドバイスを聞けるとさらに良かったのではと思った。
ユネスコスクールの活動と、支援していただける ASPUnivNet などの外部の支援機関についてよく理解することができた。
ユネスコススクールと教育行政、地域ユネスコ協会それぞれの立場での果たす役割を踏まえつつ、その連携・協働をいかに進めていくことができるのかという具体事例が参考になった。
ユネスコ協会の活用について、学校と外部組織が相互に検討する時間となった。
各校の実践がよく分かり、これからユネスコスクールを目指したいと考えているものとして参考になった。
各地の事例を聞けたのは良かった。が、それを取り組んだことによって生徒が、学校が、地域がどう変化したか、を議論するのが大事ではないか？とは感じた。
企業のESDの取組を聞けたことがよかった。
国際協働学習のノウハウを学ぶことができた。SDGsの実践の交流の重要性を学ぶことができた。
国際交流、国際協働学習を実践している方々と出会えて良かった。
国際交流のコツについて、非同期型を利用するなど具体的な方法を知ることができた。
参加者の方の意識も高くて、刺激になった。
参加者同士がお互いの困り感を共有し、解消する時間が少なかった。事例報告は１つに絞って焦点化した分科会にすると参加者が得るものが多いと思う。
参考になるお話がたくさん聞けて、様々な方とつながりができた。
比較的小人数だったので、話し合いの時間が十分あったことがよかった。

実際の高校での取組、今後どのように教員が取り組んでいくかの指標ができた。
終了時の参加者のネットワーキングまでの様子を見て、共に学びを通して、ユネスコ活動を通して知り合った人間関係は、良好な人間関係、つながりを持つことができると感じている。
司会進行が温かく、登壇者、参加者のみなさんの想いを引き出していた。ご参加の皆さんのお話もとても興味深いものだった。教え子の方が登壇され、ESDの紡ぐつながりに感激した。
色々な支援機関・サービスがあることがわかった。
生涯にわたって行うESDを実践していくことで、小中学校時代にESDに出会った子どもたちの成長後の姿をみんなで共有できた。
大変参考になる事例紹介をしていただいた。またグループワークで他の方とのお話の場があったこともよかった。
本校の課題解決の糸口になる内容であった。

※どの分科会に対するコメントかは明示していません。

7. 企業との連携に関心がありますか。



【回答数：81】

8. その他、第 16 回ユネスコスクール全国大会に関するコメント・ご感想・ご要望等がございましたらご記入ください。

主な回答
分科会報告は男性ばかりだったので、一人でも女性が入るといいと思った。もっと女性の発表者を前面に出してもらいたい。東京の会場は他県の方々は大変だが、全国的に考えると集まりやすいのではないかと思う。今後もこの会場で開催してほしい。
参加者同士の交流が最後の会場解放時だけだった。各分科会やポスターセッションの際にお隣同士で意見交換ができる時間を取り入れると、より学びや予期せぬ交流が生まれて面白かったと思う。
ポスターセッション会場にもう少しスペースがあるとよかった。人混みでゆっくり説明を聞いたりポスターを見たりできず、せっかくの機会なのに少し残念に思った。

ESD、ユネスコスクール、地域ユネスコ協会の全ての周知と普及促進、連携協働実践の充実等に強く関わり、支援機能を果たす教育委員会(県レベル，市町村レベル）の建て付けが全体的に弱いと感じた。文科省とユネスコスクールをつなぐ最も重要な位置にあるはず。教育委員会自体の価値意識をいかに高めるか、教育委員会の理解と協力、指導支援をいかに連動させていくかが最重要課題になっていると思う。
いろんな企業とつながりながら展開をしていくと、子どもたちにとってもキャリア教育につながると思う。今後も継続して参加していきたい。
会場が広くて、ポスターセッションの場所などがわかりにくかった。案内をもう少し出してもらえるとありがたかった。
オンライン参加でも、休憩中の会場の様子を中継してもらえるとありがたい。
多くの方の情熱に刺激をうけ、今後も頑張ろうと思えた。
現在は県指導行政に携わっているが、学校現場に戻ったら改めて ESDに学校全体で取り組んでいきたいと思っている。
ユネスコスクールの成果がどれだけ地域の教育に貢献しているのか、ユネスコスクール以外の教員の積極的な参加があっても良いのでは。
ポスターセッションの会場撤収の時間がタイトで、大変だった。
分科会では、所属がわかりやすいようにリストがあると後での連絡がしやすい。
ユネスコの勧告にもあるように、ESDとGCEDの一体的な取り組みについて触れてほしい。
以前のような活気もなく、少し残念だった。もう少し全国のユネスコスクール関係者の方々の意識が高まることを期待する。
意見交換を活発にして、新しいつながりを作るために懇親会があればよかった。
関係者をもっと参加させようと思った。
現在、ユネスコスクールへの登録へチャレンジ中で、すべてが参考になった。
高校生の期末テストの時期と重なってしまったので、日程設定を微調整していただければ、さらに、高校生が参加しやすくなると考える。
今後、ぜひ海外のユネスコスクール関係者にオンライン等で参加して議論を行っていただくといいのではないかと思う。
私自身が国際交流の分掌に入ったばかりで、ユネスコスクールでできることが良く分かっていなかったので、とても学びが多いものとなった。
次はポスターセッションに参加したい。
実施要項やプログラムの配布を早くしてもらえれば出張手続きなどに助かる。
社会に開かれたユネスコスクールを実感できた。
若手教職員が参加しやすい、公開授業があるといいと思った。

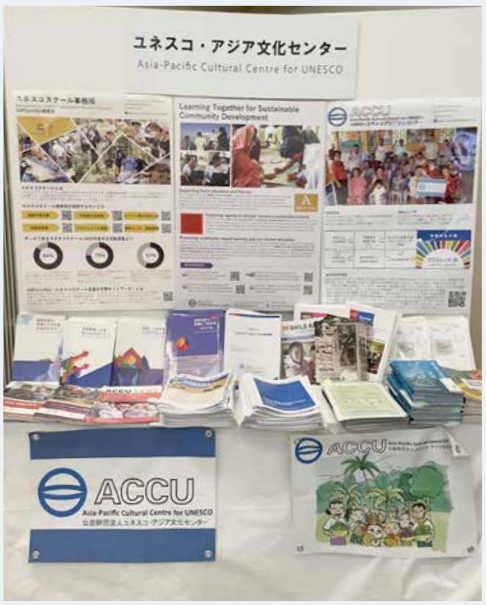
初めて現地で参加したが、子どもたちへ受け継いでいくバトン作りを真剣に考えてくださる教育現場の方々に接することができて、とても良い機会をいただいた。
世界で活躍しているユース世代の方をスピーカーとして呼んでいただきたい。日本のユース世代とライブでオンライン交流ができたら、国境を越えて同世代でお互いに刺激を受けることができると思う。
分科会の参加者の中には実績豊富な方がいますので、そういう方の話題提供をしっかり聞きたい。分科会の一部に話題提供の公募制を取り入れては？
幼児期からの活動の重要性をクローズアップしていただければありがたい。

フォトギャラリー

UNESCO WEEK 2024/25
第３回 ユネスコウィーク
11/29 | 18:00-19:30
国際シンポジウム
持続可能な未来へと紡ぐ
持続可能なコミュニティ
12/30 | 10:00-18:00
第16回
ユネスコスクール全国大会
社会に開かれたユネスコスクール
－多様性と共生の未来への貢献－
12/1 | 10:30-17:30
ユースフォーラム
「今から、ここから、わたしから」
－ユースが集い、創るユネスコ活動の未来－

UNESCO WEEK 2024/25

UNESCO WEEK 2024/25 第3回 ユネスコウィーク


ユネスコ・アジア文化センター
Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO
ACCU
Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO

UNESCO WEEK 2024/25 第3回 ユネスコウィーク

第16回ユネスコスクール全国大会
第2分科会

パネルディスカッション

サヘルさんが大変な
経験をしたり学校や
社会でいじめ排除が
起こるのはなぜで
しょうか。

unesco
2024
UNESCO
WEEK

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）内

ユネスコスクール事務局

東京都千代田区神田神保町 1-32-7F　出版クラブビル

TEL：03-5577-2852　　FAX：03-5577-2854

URL：https://www.accu.or.jp/

※本報告書は、令和 6（2024）年度 ユネスコ未来共創プラットフォーム事業の一環として文部科学省の委託を受けて作成しています。